

5 進路指導との連携

教科「職業」の指導内容ひとつでもある「産業現場での実習」は、企業就労を目指す生徒にとって、職業選択な重要な足がかりとなると同時に、自らの卒業後の職業生活が意識でき、実社会の見聞を広め、自分の将来像を持つことができる取り組みである。ちゅらさき分教室は、前期・後期と年間2回の現場実習だけでなく、随時の抽出実習を行っており、中には年間4回の現場実習を実施した生徒もいる。生徒自らが職種を選択し、進路担当者へ現場実習を依頼するなど、仕事に対する興味、就労に対する意欲も見られるようになった。また、ちゅらさき分教室の特徴として、絶えず学級担任、授業担当者、進路指導担当者など全職員で授業や生徒の情報交換をこまめに行える環境があり、現場実習での評価をフィードバックし、全職員が個々の生徒の課題を共有することで、全ての学習活動において生徒の課題克服に向けた取り組みが行えている。

6 研究の成果と課題、今後の展望

(1) 成果

- ① 丁寧に個々生徒の課題や教育的ニーズの確認、目指す将来像を確認したことで、指導内容、学習内容によって生徒が何を習得するのかが明確に分かりやすくなった。それは、生徒に新たな学習や生活への意欲につながっている。
- ② 卒業後の就労に向けたキャリア教育の実践を積極的に進めたことで、生徒が自らの将来に関心を持ち、積極的な態度や意欲として現れるなど生徒全員に大きな変容が見られた。
- ③ 生徒が将来の職業生活について、自分事として考えることができるようになったことで、働くために必要なことだけでなく、働きながら生活するために必要なことについて、自己の課題を見つけ、取り組む様子が見られる。

(2) 課題と今後の展望

- ① 職業の授業の振り返りでは情報機器を活用した「振り返りシート」を使用している。情報機器の活用は「職業」における項目の一つであり、毎時間、情報機器を活用できているという利点がある。しかし、客観視が苦手な生徒にとって、現在の「振り返りシート」は、自らの成長を確認しづらいという欠点も感じる。今後、自らの成長を分かりやすく確認でき、また、仲間の成長に関心を向ける機会が増えるような振り返りの方法も工夫していく必要がある。
- ② 更に教科「職業」の充実を図るために、自立活動や他教科と連携、教科横断的な学習が求められる。
- ③ ちゅらさき分教室は、学級担任、授業担当者、進路指導担当者など全職員で、授業や生徒の情報交換をこまめに行える環境である。現在の体制を今後も引き続き継続し、全職員で生徒の企業就労に向けた取り組みを充実させていきたい。
- ④ 卒業後の離職防止を兼ね、余暇活動の一環として、在学中から文化やスポーツなどの生涯学習に向けた指導も必要だと考える。